

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2017.08 >

BULLETIN

2017年7月～2018年6月



国際会長
アジア会長
東日本区理事
関東東部部長
クラブ会長

Henry J Grindheim「ともに、光の中を歩もう」(ノルウェー)
Tung Ming Hsiao「ワイズ運動を尊重しよう」(台湾)
栗本治郎「広げようワイズの仲間」(熱海)
長尾昌男「義務を果たして、クラブと関東東部の活性化を図ろう」(千葉)
浅見隆夫「親睦なくして奉仕はない」(グリーン)

会長 浅見 隆夫
副会長 西澤 紘一
書記 目黒 卓
書記 布上征一郎
会計 平林 正子
会計補佐 佐野 守
監事 柿沼 敬喜
担当主事 松本 竹弘

8月

「これらの言葉を聞いて行う者は皆、

岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。」

< 良い言葉を聞くだけではなく、そのことを行うことにより初めて賢い人

「ワイズメン」になる。 > (マタイによる福音書7:24)

2017年08月 納涼例会

日時:2017年08月16日(水) 18:30~21:00
場所:浅草橋「ベルモントホテル/ラコント」
東京都台東区柳橋 1-2-8 Tel:03(3864)7733
受付:浅見(ク)君 会計:平林君 司会:青木君

開会点鐘 浅見会長
聖書 食前の感謝 古平君
ゲスト・ビジター紹介 浅見会長
挨拶 公式訪問 長尾昌男 関東東部部長
衣笠輝夫 関東東部ユース事業主査
布上信子 関東東部メット事業主査
会長報告 浅見会長
事業委員会報告 各事業委員長

*****会 食*****

乾杯 新倉君

< 食事中でもアピールあれば申し出を >

Happy Birthday < 7月新倉健司メン
塩入淑子メネ・布上信子メネ >

< 8月浅見隆夫メン松本めぐみメネ >

閉会挨拶 柿沼君
閉会点鐘 浅見会長

CS 第76回神田川船の会 10/14

第76回新設コース
乗船ゲスト募集のご案内
2017.10.14開催

◆大人 ¥3,500
◆小・中学生 ¥2,200
◆年費 ¥2,000 (年会費 ¥100 別)
◆予約 10月10日迄 100円
◆予約 10月11日〜13日 1,000円

前回第75回が天候不順で中止となり、ご迷惑をおかけしました。次回は秋の好天に恵まれることを期待しています。

【例会出席率】 在籍:17名(含広義会員1名) メーキャップ 2名 出席率 11/16 69%

出席:7月例会 (グリーンメン 9名、メネット 1名、ビジター1名)計 11名

【ニコニコ】 7月例会 11,000円 今期累計 11,000円

＜2017年07月第一例会報告＞

日時:2017年7月19日(水)18:30~20:30

場所:千代田区和泉橋区民館 2F

出席:青木・浅見(隆)・稲垣・柿沼・古平・高谷・西澤
布上・松本(ピジター)片山啓(メネット)布上(信)

キックオフ例会のゲストスピーカーとしてお願いしたのは片山 啓直前関東東部部長。ご自分で作成された「関東東部卓話奉仕者リスト」のトップに記載され、そのテーマは「我が国の海外援助業務の実際」あまり知られていない海外での国際援助業務の苦労話。「橋の世界」海外を中心にした橋梁や国内の橋に関する話題。ということでクラブの総意で是非、お話を伺いたいということになった。

そもそも、片山ワイズは株式会社:長大という日本有数の総合建設コンサルタントにお勤めで特に海外での橋梁の設計施工をお仕事にされている。その貴重な経験談を多数の興味ある画像を駆使して楽しくお話をされた。

タイトルは「橋のはなし」。内容の目次には主な話題として1、橋の種類と機能 2、世界の橋の物語 3、橋の計画 4、橋の風景 となっている。PPT で写される世界の橋の数々、国内外での大きな橋の設計と工事の苦労話が盛り



沢山。明石海峡大橋;全長 3911m、中央支間 1991m、1998年(平成10年)に架橋。総工費は約5000億円。東京のランドマーク「レインボーブリッジ」を思い出させる。古い写真では明治44年・1911年に架橋されたおなじみの「日本橋」、架橋時の画像が出てきた。



まったく別の場面で下の屋根付きの橋を見て、片山さんと



筆者で顔を見合わせ、この橋をテーマにした映画のタイトルが出てこなくて笑った。クリントイーストウッド監督主演、メル・ストリープと共演の「マディソン郡の橋」だ。

その他に韓国仁川、ギリシャ、フレンツェ、ニューヨーク、サ

ンフランシスコ、イラン、ヴェネチア、数々の有名な橋の詳細を語られ、とても有益な講演となった。

卓話終了後、例会はその他のテーマに移り、グリーンクラブが設立45周年を迎えるにあたって、40年・50年の中間点ではあるがクラブ活性化のためにも親しいワイズクラブ仲間にお声がけをして小規模でも「45周年の集い」を企画しようとの提案があった。その是非を議題として協議をした。

片山さんとは例会の後、近くの居酒屋でなお、橋の話の続きをさせていただいた。本日のニコニコは11000円。

(布上 記)

＜2017年07月第二例会報告＞

日時:2017年7月12日(水)18:30~20:30

場所:千代田区和泉橋区民館 4F

出席:浅見(隆)・柿沼・佐野・布上・平林・松本

1. 配布資料

- ①関東東部第1回評議会提出クラブ活動計画
浅見会長報告、布上メネット事業主査報告
- ②17-18年度クラブ行事・クラブ組織一覧表A3(原案)

2. 報告・連絡事項

- ①グリーンクラブ設立45周年記念例会
実行委員会立ち上げの件 実行委員長:柿沼敬喜
委員:浅見隆 青木 浅見ク 布上 目黒
- ②チャリティーラン(9/23)の件
*例年の北クラブと合同で1チーム5万円支出
*コミュニティ関連1万円支出 東陽町センター
- ③関東東部第1回評議会 7/19 東陽町視聴覚室
浅見会長/布上書記/平林会計/布上メネット事業主査



- ④7月例会卓話 *片山 啓(茨城)様「橋のはなし」
- ⑤前年度クラブ会計報告 例会で報告
- ⑥今年度クラブ予算 例会で報告
*会計補佐 佐野メン(ファンド関連管理)選任
- ⑦その他

- 8/26 夏祭り 備品手配済み 8/25 前日設営(布上)
8/26 当日10:00 集合
- 9/23 チャリティーラン 9/11 第2回委員会
- 9/30 関東東部部会 千葉市美術館
- 10/14 76回神田川船の会 3艘出船
前回75回の中止により、キャンセルされた皆様を優先乗船企画いたしました。

3. 審議・協議事項

- ①8月納涼例会(浅草橋 ベルモントホテル・ラコンテ)
公式訪問 長尾昌男関東東部部長
衣笠輝夫関東東部ユース事業主査
布上信子関東東部メネット事業主査
- ②9月例会ゲストスピーカーの件
浅見会長 <蛇の話>を予定
- ④その他 (布上 記)



2016年9月 幻冬舎

タイトルからはわかりにくいのだが国際ピアノコンクールを舞台とした小説である。もう徹頭徹尾コンクールである。第一次予選、第二次予選、第三次予選、そして本選と進んでいく。このコンクールを舞台として、とある4名の参加者を中心に群像劇がくりひろげられる。

大長編であるから、ピアノコンクールというものにどっぷりとひたるにはこれとない小説である。しかし、あまりこの世界になじみがないと、あまりの長丁場にダレるかもしれない。なにしろ、500ページにして2段組という分量なのだ。

言わば本作は国際ピアノコンクール追体験小説であり、コンクールに挑む主要登場人物の誰に肩入れするかも、読み手の好みがいかに楽しい。あえて主人公をあげるとすると、元天才少女であるところの栄伝亜矢ということになるだろうが、歳のせいか、僕は最年長の高島明石をひいきしてしまいたくなる。

素直に小説の世界にひたってしまってももちろんよいわけだが、せっかくなので、ここはあえて本作品から、隠された文学的主題を読み取ってみようと思う。

というのは、この小説のタイトル「蜜蜂と遠雷」というのが気になったからである。なぜ、これが国際ピアノコンクール小説のタイトルになるのか。

このタイトルがコンクール参加者のひとり、「蜜蜂王子」とこと風間塵にちなんでいることは想像に難くない。

この物語では、風間塵はトリックスターとしての立場で登場する。それ以外の参加者たち、亜矢もマサルも明石も、コンクールを通じてそのピアノの出来具合から人徳に至るまで、目覚ましい成長を遂げていくが、風間塵だけは彼らの成長の触媒であり続け、彼自身は一見すると、初めから終わりまで何も変わっていないように見える。天衣無縫のまま走り抜けたように思える。

しかし、風間塵もまた実は変容したのである。それこそがこの小説の奥底にある文学的主題だ、と僕は断定してみる。

風間塵こそは本小説の問題提起的存在であるが、ではいったい彼の何がそんなに問題提起なのかは、わかるようでわかりにくい。なぜ審査員はあんなに葛藤するのか。あれだけまわりを熱狂させておいて優勝でも準優勝でもなく、第3位という結果は何を意味しているのか。

もちろん、このピアノコンクールという世界のことをよく知っている人ならば、なぜ彼のピアノが聴衆をあれだけ熱狂させながらつねに審査の場では賛否真つ二つとなり、ついには第3位で終わったのかについて、まあそんなところだろうかと非常にリアリティを感じられる。しかし、普通の物語的カタルシスでいえば、彼こそが優勝であろう。むしろ、優勝者であるマサルは「フラグ的」には優勝を逃すようにさえ思える。

しかし、クラシック音楽におけるピアノコンクールという場ではやはり、優等生マサルのタイプが優勝をする。風間塵は優勝できない。公算としては本選進出さえ危ないはずなのである。

なぜならば、彼の音楽の由来は、「蜜蜂」にあるからだ。

風間塵が「蜜蜂王子」と呼ばれるのは、彼の家が蜜蜂農家であるからなのだが、彼に音楽的才能を与えた由来が「蜜蜂」を象徴とする自然世界の音と律動にあったからでもある。ここから導かれるテーゼは、美しい音楽は「初めからそこにある」という哲学である。彼の神に見初められたといってもよい、音に対しての繊細な神経と指先の身体能力は、すべて自然の森羅万象と接点をもつ日々から生まれた。

しかし、クラシック音楽という世界はそれだけでもない。インスピレーションとはむしろ遠いところにあり、本能的才覚だけで、クラシック音楽は完成しないのである。

西洋音楽であるところのクラシック音楽というものは徹底的な考察と考証をふまえ、前人の検討と様式を踏まえ、人智と信仰までも包摂させた規定演技の芸術の世界にあると言ってよい。極端な言い方をすれば、風間塵のピアノは「芸」ではあっても「芸術」ではない。それがどんなに人の心をとらえ、狂わせようとも。それだけではイージーリスニングとみられてしまうのである。

しかし、初めから天才少年のように現れた風間塵は、物語の中で一度だけ変容をする。

それが「遠雷」に関わってくる。

実はこの物語、「蜜蜂」は何度も登場するが、「遠雷」という言葉は一度も登場しない。ただ一度だけ、第3次予選のまえ、風間塵はコンサートホールを出て、冬の雨が降る街の中を彷徨う。その空間は蜜蜂の音など聞こえない、寒々しい空の下だった。風間塵は孤独を感じる。亡き師匠の不在を強く意識する。このとき「遠いところで低く雷が鳴っている」。

この、雨の中の孤独の彷徨を経て、風間塵は覚醒するのだ。彼は亡き師匠のもとに音を届けようと思ひ至るのである。

「蜜蜂」に象徴される自然の律動の申し子、風間塵は遠雷のシーンを経て覚醒する。この覚醒の意味は、音楽を奏でることの、単なる喜びの発露ではなく、それを「誰かに聞かせたい」というメッセージ化にある。

もともと風間塵は「観客が誰もいなくても、無人島にピアノがあれば、楽しんでそれを弾く」人であった。美しい音楽は初めからそこにある。しかし、遠雷で覚醒した彼は、その音楽を誰かの元に届けたいと思うようになる。

(次頁へ続く)

(前頁より)

彼が「3次予選」を通過し、「本選」へ進めたのはこのステップアップがあったからだ、というのが僕の仮説である。この覚醒がなければ、審査員を屈服させることはできず、彼は3次予選で終わっていただろう。

3次予選で彼が「何度も」弾く曲がエリック・サティの「ジュ・デ・ヴ」、すなわち「あなたがほしい」である。

風間塵のキャラクターからすれば、人を欲するタイプではないだろう。しかし、3次予選以降の彼の演奏は、人に対してつながろうとしている。一次予選、二次予選はたんに自分に対し戯れているだけであつたが(そのレベルが半端なくて聴衆のほうが目するが)、3次予選の演奏は自分を、自分の音楽を聞き手に差し出している。それも何度も弾くのである。(通常、コンクールで同じ曲を2度弾くことはない。この物語でもそのことが物議を醸し出すことになる)。

そして本選で彼が選んだ曲は、ハンガリーの作曲家バルトークのピアノ協奏曲第3番。この曲は、自分の命がもはや長くないことを知ったバルトークが、自分が亡きあとも愛する妻(ピアニスト)が仕事を失わないように、妻にあわせてつくった曲だ。バルトーク特有の暴力性は影をひそめ、全編にわたって格調とつつしみが溢れている名曲中の名曲である。それまでのバルトークの曲は、バルトーク自身の美学のプレゼンテーションであつたが、このピアノ協奏曲第3番は、純粋に「妻のために」つくった曲だ。第2楽章の美しさは絶品である。

風間塵はそれを弾く。彼は着地したのだ。

以上のことは、この長大な小説のどこにも書かれていない。完全に僕の深読みのお遊びである。

この深読みの根拠は、一度しか現れない「遠雷」のシーンが彼に何を作用させたのかということ、通常のコンクール演奏ではありえない「何度も弾く」サティの「お前がほしい」が意味する含み、そして本選の曲として選ばれた「バルトークのピアノ協奏曲第3番」である(さそうあきらの傑作「神童」でも、この曲は重要な場所に出てくる)。

音楽というのは、ことにクラシック音楽というのは西洋倫理の一形態であり、そこには形式や秩序があり、絶対的な時間芸術であり、そこで要求されるものはかなり窮屈なものであるが、いっぽうで音楽というのは必ず「誰かに聞かせよう」としているものである。聞き手を無視した音楽というのは原則的にはありえない。神にきかせる曲もあれば、パトロンにきかせる曲もあれば、愛する人に聞かせる曲もある。音楽は必ずコミュニケーション性をまとっている。そして、逆説めくが特定の誰かでない、全人類への祝福として音楽はその威力を発揮できる。風間塵が到達した境地はここである。

美しい音楽はたしかに人間などいなくても、初めから自然にそこにあるかもしれない。しかし、天衣無縫だった風間塵の演奏が、誰かに届けるために弾かれたとき、この上ない幸福な「音楽のある人間の世界」が実現するのだ。

(西澤絢一 記)

YMCA コーナー



▼九州北部豪雨 緊急支援募金

2017年7月5日から断続的に強く降り続いた豪雨は、福岡県の朝倉市朝倉・朝倉市杷木、東峰村や大分県の日田市など広範囲に渡って甚大な被害をもたらしました。多くの尊い命が失われ、十数名の行方不明者、また避難所生活を余儀なくされている方も大勢います。西日本地区のYMCAでは、被災地での緊急支援活動として、必要な物資の支援、また瓦礫撤去などのためのボランティアの派遣、避難所の支援活動などを実施します。

また中長期支援として、自然の脅威にさらされた子どもの心のケアプログラム(キャンプ)を複数年にわたり継続し、子どもたちが元気になることによって、地域が復活していくことを目指します。

【募金の使途】

皆さまからいただいた募金は、日本YMCA同盟で集約し、被災地復旧ボランティアの派遣(短期)、子どもたちの心のケアキャンプ(中長期)に用いさせていただきます。

【募金期間】2017年7月14日(金)～9月30日(土)

【募金方法】お近くのYMCAの窓口、または下記の口座へ振込をお願いします。

みずほ銀行 神田支店(店番号 108)

普通 1123669 公益財団法人東京YMCA

* 振込時にお名前の前にキューとお書き添えください。
皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします。

▼災害スタディ「防災まち歩き」

「東京災害ボランティアネットワーク」事務局長の福田信章氏を講師に迎え、防災の視点に立って一緒に東陽町を歩きます。チェックポイントの確認やその活かし方を、プロと一緒に体験できます。体験後は、参加した皆さまがお住まいの街でも同様のまち歩きを実施していただき、防災のネットワークを作ってほしいと願っています。

【日 時】2017年9月2日(土)13:00～16:00

【会 場】東京YMCA東陽町センター(江東区東陽 2-2-20 東京メトロ東西線・東陽町駅西2番より徒歩5分)

【対 象】YMCA会員ならびに関係者 【参加費】無料

【講 師】福田 信章氏(東京災害ボランティアネットワーク 事務局長)

【服 装】歩きやすい服装、帽子、雨の場合は合羽が望ましい。飲み物とタオルをご持参ください。

【申込み】8月末日までに、東京YMCA会員部へご連絡ください。tel.03-3615-5568 (主事 松本竹弘 記)